



☆☆☆ 福井市で 5月と6月に 二度「フクシマと共にパレード」を開催 ☆☆☆

◎ 同じ過ちを二度と繰り返させないために、
私たちは なぜ 間違いを犯したのだろうか、
そして 何を反省するのだろうか、
その間違いを どう是正してゆくのだろうか

越前市 山崎 隆敏

福井市で「パレード」をする

福井市で5月と6月に二度「フクシマと共にパレード」を開催しました。前宣伝は十分にできていませんでしたが、ツイッターでの呼びかけにこたえて参加してくれた若い世代が大半でした。団体参加ではなく、個人から個人の呼びかけによる個人参加のパレードというのが主催者の主旨です。

複数の呼びかけ人の中には、これまで長く反原発運動を担ってこられた県民会議にも敬意を表す意味で、小木曾美和子さんにも名を連ねていただきました。

そして、赤ちゃんも多いことですし、若い世代にはあまり受けにくいシュプレッシュコールなどもない静かなパレードを心がけました。赤ちゃん連れの若い夫婦連れもたくさんいました。福島県の大葉町に実家があるという若い夫婦は、振津先生の講演会も含め、疎開先の滋賀県から何度も参加しています。

パレードの後の交流会では、新しい多くの参加者から、様々な意見を出してもらいました。そこで、「原発震災は逼迫している。定期的に会合を開き、活動を継続してゆこう」ということが決まりました。

パレードは市民の権利なのですが、・・・



ところで、参加した人の中で、「カメラがたくさん回り私たちを映していた。誰がそんなことを許したのか。刑事も多く、主催者はなめられているのではないか」という感想をツイッターで流した人がいました。

実は前日に某テレビから「参加予定者から、会社に知られると出世の妨げになるからテレビ中継は止めてほしいという声を聞いたので、中継を自粛させていただく」との電話がありました。

しかし、一社が「自粛」したとしても、他のテレビなどマスコミもたくさん来ます。そこで参加者には、「そもそもパレードは、多くの人の目に身をさらすことを通して、社会や政治に対する警鐘となることをねらった社会的行為であり、多くの参加者はそこに意義をみいだしている。すべての参加者が人の目にさらされることを忌避するならば、パレードの本来の意義は失われる。だから、顔を写されたくない方は、別の場で、自分の良心にもとづく行動(匿名で投書を書く、近身

近な人に原発問題について話す)を行っていた
だきたい。それでもパレードには出たいと考える
なら、顔を知られないように仮装するなど自己
防衛をしていただきたい」と伝えたのです。

価値観のコペルニクスの転換

大切なのは、「過去を見つめる」視点

さて、フクシマの悲劇を目の当たりにし、多く
の人々が、これまでの自身の生き方も含め価値
観を大きく変えなければならぬと真摯に考え
ようになりました。

まさに国民的規模で価値観のコペルニクスの
転換が起きたのです。

それならこの先、私たちはどのような社会を、
どのような価値観のもとに築いてゆくべきでし
ょうか。それを共に考え、国民的な議論をする際
に欠かせないのが「過去を見つめる」視点で
す。日本人には「済んだ事は水に流す」という
態度が受け入れやすいのですが、それで終わ
れば、私たちは「未来に対して盲目となる」だけ
でしょう。(ヴァイゼッカー大統領の演説より)

「原子カルネッサンス」ならぬ

「原子カフアッシュム」

私は、わが国の原子力政策の現状を「原子カ
ルネッサンス」ならぬ「原子カフアッシュム」であ
ると批判してきましたが、その原子力政策を重戦
車のごとく推進してきた政治家や官僚、そして
それを無邪気に擁護してきたマスコミ、タレント、
文化人、学者は無数にいます。また、彼らの言
説を無邪気にうのみにしてきた私たち国民一人
ひとりの責任も問われています。

かつて猛毒のサリンを製造しそれを市民の生
活圏にばらまいたカルト教団がありました。彼ら
は逮捕され厳しく罰せられました。

他方、市民を傷つけることが目的ではなかつ
たにせよ、サリン以上の大量の放射能を国民の

頭上にばらまいたのは、ほかならぬ私たちを守
るべき国家でした。

「フクシマの事故で放出された放射能も、 電気を使った皆さん一人ひとりの責任です」 エー？

「高レベル放射性廃棄物の管理をどうするつ
もりか」という市民の問いに、動燃の担当者は
「電気を使った国民の皆さんの責任です」と言
い放つのを私は聞いています。

また、放射性廃棄物の処分を担当するNUM
Oという機関は広報で「子供たちの未来につけ
を残してはなりません。国民一人ひとりの責任
で考えましょう」と呼びかけています。

私はその論理を受け入れることはできません。

なぜなら、彼らの論法に従えば、「フクシマの
事故で放出された放射能も、電気を使った国民
の皆さん一人ひとりの責任です」ということにもさ
れかねないからです。

大多数の国民が「原子カルネッサンス」を信じ
こんでいたときでも、カルト的国家の暴走を告発
する良識がわが国にも少数ですが存在しまし
た。少数意見を尊重する習慣、少数の良識を
汲み入れて徹底議論する制度がわが国にあれば、
フクシマの悲劇は避けられたかもしれない
のです。

今の私たちの世代で

成し終えておかなければならない

私は、「戦犯探し」やたんなる個人攻撃を意図
しているではありません。同じ過ちを二度と繰
り返させないために、私たちはなぜ間違いを犯
したのか、そして何を反省し、その間違いをどう
是正してゆくのか、そのための検証を、今の私
たちの世代で成し終えておかなければならない
と考えるのです。

